

魔法なんて信じない。でも君は信じる。



[魔法なんて信じない。でも君は信じる。_ダウンロード1_](#)

著者:大谷能生

出版者:太田出版

出版时间:2009.10.29

装帧:A5

isbn:9784778320942

描き下ろしマンガ原稿が、出版前に67ページまるまる紛失!!

この史上最大規模の原稿紛失事件の当事者が、顛末そのものをマンガ化（ルビ・ドキュメント）!!!!

さらに気鋭の批評家・大谷能生氏による論考も併せて、この事件から見えてきた「マンガ」というメディアの本質に迫る!!!!

- マンガはどのような要素によって描かれているのか?
- コピーされることによって広まる／力を得る作品の特徴
- 20世紀のポピュラー文化の再考と、そのなかに位置づけられるものとしてのマンガ
- デジタル化の狭間にある手作業としての「マンガ原稿」と出版文化
- 00年代以降の「子供文化」と、デジタルへの移行がもたらすものについて
- 「何かオリジナルである」ことのフレームの確認
- マンガのオリジナルである「マンガ原稿」の価値と位置づけ

作者紹介:

西島大介（にしじま・だいすけ）

マンガ家。2004年に"ハヤカワSFシリーズJコレクション"から、書き下ろし長編コミック『凹村戦争』（早川書房）でデビュー。同作は第8回文化庁メディア芸術際審査員推薦作品となり、またこの年の星雲賞アート部門を受賞。2005年には同じく書き下ろしで『世界の終わりの魔法使い』（河出書房新社）を刊行、後にシリーズ化される。他作品に『アトモスフィア(1)(2)』（早川書房）、『恋におちた悪魔世界の終わりの魔法使いII』（河出書房新社）、『土曜日の実験室 詩と批評とあと何か』（INFASパブリケーションズ）など。現在はマンガ誌に活動の場を移し、『ディエンビエンフー』を「月刊IKKI」（小学館）で、『I Care Because You Do（アイ・ケア・ビコース・ユー・ドゥー）』を「モーニング・ツー」（講談社）で連載中。「マンガっち」としても活動し、数多くのエッセイ・コミックを連載。「DJまほうつかい」名義で音楽活動も行う。2009年より講談社BOXの企画『西島大介のひらめき☆マンガ学校』にてライター・さやわかとともに講師も務める。原稿紛失により発売が延期された待望の『影の子どもたち世界の終わりの魔法使いIII』は、11月発売予定。

大谷能生（おおたに・よしお）

批評家、音楽家。96年～02年まで音楽批評誌「Espresso」を編集・執筆。様々な雑誌、webへの執筆・寄稿を行い日本のインディペンデントな音楽シーンに実践と批評の両面から深く関わる。2004年9月、菊地成孔との共著『憂鬱と官能を教えた学校【バークリー・メソッド】によって俯瞰される20世紀商業音楽史』（河出書房新社刊）を上梓。2004、2005年と、同氏と共に東京大学教養学部にて講義を担当。『東京大学のアルバート・アイラー 歴史編』『同 キーワード編』（菊地成孔・大谷能生／メディア総合研究所）として書籍化される。他著作に、『日本の電子音楽』（川崎弘二著 大谷能生協力／愛育社）、『200CDジャズ入門200音楽書シリーズ』（200CDジャズ入門編纂委員会編/学習研究社刊）、『貧しい音楽』（月曜社）、『M/Dマイルス・デューイ・デイヴィスIII世研究』（エスクアイア マガジン ジャパン）、『散文世界の散漫な散策』

二〇世紀の批評を読む』(メディア総合研究所)、『大谷能生のフランス革命』(以文社: 門松宏明との共著)、『日本ジャズの誕生』(青土社: 瀬川昌久との共著)、『持ってゆく歌 置いてゆく歌ー不良たちの文学と音楽』(発行エスクァイア マガジン ジャパン、発売アクセスパブリッシング)、『アフロ・ディズニー エイゼンシュテインから「オタク=黒人」まで』(文藝春秋: 菊地成孔との共著) 等。

目録:

[魔法なんて信じない。でも君は信じる。_ダウンロード1_](#)

标签

コミック

评论

[魔法なんて信じない。でも君は信じる。_ダウンロード1_](#)

书评

[魔法なんて信じない。でも君は信じる。_ダウンロード1_](#)